



## 八雲町へのアクセス

### 道内からの交通

- JRの場合  
函館駅から約1時間／札幌駅から約2.5時間  
新千歳空港から約2時間
- 車の場合  
札幌から約3.5時間／小樽から約3時間／千歳から約3.5時間  
苫小牧から約3時間／函館から約1.5時間／室蘭から約2時間

### 本州からの交通

- フェリーの場合  
函館港、苫小牧港、小樽港、室蘭港から、それぞれ車の時間
- 飛行機の場合  
・新千歳空港→JR八雲駅 特急で約2時間  
・函館空港→JR八雲駅 特急で約1.5時間
- JRの場合（JR八雲駅まで）  
・東京駅から北海道新幹線・特急で約5時間



# 八雲町 新規就農ガイド

【移住についてのお問い合わせ】  
八雲町移住推進協議会  
(八雲町役場企画振興課内)  
TEL.0137-62-2300  
FAX.0137-62-2120  
<http://www.town.yakumo.lg.jp>  
E-mail : kikaku@yakumotown.lg.jp




新規就農・研修・実習・  
酪農ヘルパー等に関する  
ご相談・お問い合わせ先

八雲町農業担い手育成センター（八雲町役場農林課内）  
〒049-3192 二海郡八雲町住初町138番地 TEL 0137-62-2203 FAX 0137-62-2149  
<http://www.town.yakumo.lg.jp/modules/nourin/>  
Eメール norin@town.yakumo.lg.jp



太平洋と日本海 二つの海を持つまち  
北海道 八雲町

# 八雲町の農業

八雲町は渡島半島の北部、函館市と室蘭市のほぼ中間に位置し、町の東は太平洋（内浦湾）、西は日本海に接する

日本で唯一、太平洋と日本海のふたつの海に面した町です。

夏季に海霧の影響を受ける町の北東部（太平洋側北部）では、古くから酪農が盛んで、町の南東部（太平洋側南部）では、1年を通じて比較的温暖な気候を生かし、もち米を生産する稲作を中心に、軟白ネギや花きなどを取り入れた複合経営が展開されています。また、山と海にはさまれ、平地が少ない町の西部（日本海側）では、施設園芸のトマトなどの集約的な農業が営まれています。



酪農  
八雲町の酪農は、今からおよそ100年前、有畜農業への転換を図るため、乳牛201頭を導入したことに始まり、第二次世界大戦後、若手酪農家を中心に酪農先進国デンマークから最先端の酪農技術を導入・実践し、生産の近代化と農村生活の改善を図ったことから、北海道近代酪農発祥の地とも呼ばれています。

現在では、放牧を取り入れた家族経営の中に、大型法人やTMRセンターなども設立され、農作業を受託するコントラクターや酪農ヘルパーが活躍する、北海道でも有数の酪農地帯となっています。



畑作・施設園芸  
太平洋側南部では、所得確保のために軟白ねぎや花きなどの高収益作物を補完的に導入しています。なかでも特産のブランド軟白ねぎ「ユーラップねぎ」やカスミソウ、スターチスなどの花き類は、その品質の高さから市場で高い評価を受けており、日本海側では、少ない平地を最大限に活用するため、トマトなどの施設園芸が盛んになっています。

また最近では、少ない面積でもより高い収入が見込める薬用作物が栽培面積を増やしています。



稲作  
太平洋側南部が中心の水田地帯は、昭和63年に道南で唯一、もち米団地の指定を受けており、そこで生産されるもち米「風の子もち」は、なめらかで粘り・コシに優れ、モチのほか、菓子や赤飯・おこわといった幅広い用途で、実需から高い評価を受けています。

また、日本海側では「ゆめびりか」や「ななつぼし」などの良食味米が栽培されています。



## 新規就農者

### 酪農

色々な方のサポートを頂き  
妻と二人三脚、  
牧場を大きく育てていきたい。

### 森田 洋平さん



就農しようと思ったのは、大学で畜産を学び、ニュージーランドの農家実習に行ったことがきっかけでした。大学卒業後、一度は本州の乳牛メーカーに勤めたのですが、30代後半になりいつか酪農で自営を行いたい、年齢的にもこれが最後のチャンスかもと一念発起し、脱サラを決意、妻と共に道東の町と八雲町でそれぞれ1年間研修を行い、農協や役場など色々な方のサポートを頂き、酪農



を予定していた酪農家さんから第三者継承で牧場を譲ってもらうことができました。

2年の研修で、酪農の仕事の内容について、わかったつもりでしたが、すべて自分の責任でやるというのはやはり大変です。今は就農したばかりで毎日仕事に追われていて、家族の時間もゆっくり持てない状態ではありますが、妻と二人、できるだけ早く経営を安定させることができるよう働らく毎日、やりがいを感じています。出身地に近いこの道南の穏やかな気候も気に入っています。

当面は経営の安定が目標です。質の良い牛乳を作り、出荷量を安定させて、譲り受けた牛を事故のないように大切に育てていきたいです。八雲町には、まだまだ新規就農者は少ないので、是非たくさんの仲間に来てほしいですね。気候的にも牛が飼いやすく、病院や福祉、教育施設など生活や子育てに必要な環境も充実していて、家族で安心して住める町だと感じています。

### 施設園芸

資金ゼロでもやる気次第。  
大きな「夢」を持つことが  
農業の原動力。

### 森岡 大地さん



農業はまったくのシロウトでしたが、祖父が八雲町で農業をされていたので、子供の頃、何度も遊びに来た思い出のあるこの町で農業をやりたいと思っていました。その夢の実現のため、フリリと役場に相談へ行ったり、入沢地区の先輩農家の指導の下、農業の様々なノウハウについて2年間、しっかり教えていただけることになり、就農にまでつながっていきました。

就農して1、2年は、先行する設備投資や技術的に不慣れな面もあり、とても大変でしたが、役場や先輩農家のサポートのおかげで、3年目からは収益の面でも手応えをつかむことができ、すべて自分で考え、実践して、結果がかえってくるということに、とてもやりがいを感じています。農業は自然が相手なので、気候に左右されることももちろんありますが、この町で得たパートナーと相談しながら、新たなアイデアや目標などをカタチにしていく努力をするのが楽しい毎日です。



今は、主に軟白ねぎと露地ねぎを作付していますが、サツマイモや蕎麦など、新しい作物にもチャレンジしたいと考えていますし、将来的には肉牛やファーム喫茶の経営といった夢も持っています。資金ゼロで始めた新規就農ですが、やる気さえあればいろんなチャレンジができると感じています。

## 支援内容

### 相談

町内の農業関係機関が組織する「八雲町農業担い手育成センター（事務局：八雲町農林課）」が農業体験・研修の相談から就農後のアフターケアまで、親身になって相談に乗ります。

### 研修

町内の指導農業士・農業士などの受入指導農家のもとで、およそ2年間プロ農家になるために必要な農業技術の知識や経営管理手法などを学びます。

### 住宅

研修期間中から就農初期にかけては、町営の「就農支援住宅」を低家賃で提供します。

### 補助金等

町内での就農が決まると、町から運転資金に使い、一定期間営農を継続すると償還が免除される「新規就農支援資金」を借りることができます。

また、就農から経営が安定するまでの5年間に必要な資金を交付する国の「農業次世代人材投資資金」も併せて活用できます。

など